

〈特集：B型及びC型肝炎ウイルス検査の最近の進歩〉

## 序文：B型およびC型肝炎ウイルス検査の最近の進歩

池田 勝義

### Recent advances in the examination of B type and C type hepatitis virus

Katsuyoshi Ikeda

**Summary** The treatment approach for hepatitis B virus and C virus that are considered to be the main causes of chronic hepatitis, cirrhosis, and liver cancer has been developing into the causal virus treatment in addition to the symptomatic treatment. To determine the diagnosis and the treatment effect, it is essential to use a test method that allows grasping the viral state precisely along with a test to assess the hepatic status. Clinical laboratories bear the responsibility for the proactive introduction and spread of such test methods.

**Key words:** Hepatitis B virus, Hepatitis C virus, Anti-virus treatment, Interferon, Activity of virus

現在、国内における肝疾患のうち最も罹患率が高いものは慢性肝炎である。慢性肝炎は、その後、肝硬変、肝癌へと進行し重篤化していくが、これらの原因としてB型およびC型肝炎ウイルスの存在が大きな要因となっている。日本癌研究会の調査（2005年）によると、肝細胞癌における慢性肝炎や肝硬変の合併率は93.2%であり、このことは、ほとんどの肝細胞癌が慢性肝炎、肝硬変から進展していることを表している。また、国内におけるウイルス性肝障害のうち15%はB型肝炎、67.7%はC型肝炎が原因である

ことがわかっている。予防や治療法の進歩に伴って、C型肝炎は徐々に減少傾向にあるが、一方でB型肝炎の再燃による劇症肝炎などの問題も浮上してきている。

肝臓の状態を表す検査として、従来から用いられている生化学・免疫および血液検査には、肝障害を表すAST、ALT、LD、肝機能を表すCHE、アルブミン、コレステロール、胆道障害を表す $\gamma$ -GT、ALP、肝線維化の指標としてヒアルロン酸、IV型コラーゲンなどがある。また、肝細胞癌のマーカーとして、 $\alpha$ -フェトプロテイン

熊本大学病院医学部付属病院 医療技術部 臨床検査技術部門（中央検査部、輸血・細胞治療部）  
〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1

Department of Clinical Laboratory, Kumamoto University Hospital  
1-1-1 Honjo, Chuo-ku, Kumamoto 860-8556, Japan

ンとそのレクチン分画 (L3)、PIVKA-IIが用いられているが、ミトコンドリア型CKなどの有用性についても検討されている。

一方、肝炎ウイルスに関する検査法は、B型肝炎に対してHBs抗原と抗体、HBc抗体、HBe抗原と抗体などが使用されてきたが、近年、HBV-DNA定量やHBコア関連抗原、HBV Genotypeなど、ウイルスの活動状態に関する検査法が開発され現場の検査室においても実施可能な状況となってきた。とくに、核酸アナログ薬やPEG-インターフェロンなどを用いた抗ウイルス治療にとっては欠くことのできない検査として定着しつつあり、治療ガイドラインにもこれらの検査値を用いた判断が採用されている。また、C型肝炎についても、HCV抗体とあわせてHCVコア

抗原、HCV-RNA検査 (NAT) などのC型肝炎ウイルスの状態を把握する検査法が開発され、利用されるようになってきている。B型肝炎と同様に、インターフェロンや抗ウイルス剤などによる抗ウイルス治療が広く行われるようになってきたことに対応している。

慢性肝炎、肝硬変、肝臓の主要な原因とされているB型およびC型肝炎ウイルスに対する治療法は、対症療法に加えて原因であるウイルス治療へと進歩してきている。この診断と治療効果判定のためには、肝臓の状態を把握する検査と併せてウイルスの状態を的確に把握できる検査法が必須である。臨床検査室はこれらの検査法を積極的に導入し普及させる義務がある。